



学校だより

令和6年度3月発行
学校法人松蔭学園
松蔭大学附属
松蔭高等学校

HP : <http://www.shoin.ed.jp/> Blog : <http://www.shoin.ed.jp/category/information/>

令和7年3月5日に卒業式が行われました

寒暖の激しい今日この頃、別れもあれば出会いもある春です。

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

別れは出会いの始まりです。新しい環境がみなさんを待っています。不安もあると思いますが、是非とも期待に胸を膨らませ新生活をスタートさせて下さい。

母校はいつでもみなさんを応援しています。



☆3年生の各賞の受賞者☆

卒業式において、様々な方面の活動で、顕著な功績を残した人が表彰されます。



(敬称省略)

学校長賞	3年1組	佐藤 杏花里
努力賞	3年1組	梨山 睦実
東京都知事賞	3年1組	佐藤 杏花里
東京都私学財団奨励賞	3年2組	風巻 真優
日本私学財団特別賞	3年1組	小野寺 彩
	3年1組	高橋 龍一
日本私立中学高等学校連合会賞	3年1組	齊藤 希星
東京都高等学校体育連盟体育優良賞	3年1組	小野寺 彩
東京都高等学校文化連盟文化活動優良賞	3年1組	高橋 龍一
	3年1組	長 和志
東京私立中学高等学校協会第八支部体育優良賞	3年1組	金子 結衣
	3年1組	田中 凌葵
東京都高等学校野球連盟賞	3年1組	南出 凜

送 辞

冬の厳しい寒さも和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じられる季節となりました。今日、この 佳き日に松蔭高等学校を卒業される先輩方、ご卒業 おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方にとって松蔭で過ごした三年間は どのようなものでしたか。目を閉じれば 様々な思い出が浮かんでくるのではないのでしょうか。

私は 先輩方と初めて出会った 二年前の入学式を思い出します。マスクを着けて行われた対面式では、期待を抱きながらも それ以上の不安と緊張で落ち着かない私たちに 優しく声をかけ、あたたかく迎えてくださったので、安心して学校生活をスタートさせることができました。そんな先輩方の優しさと頼もしさにいつも支えられ、憧れてきました。

先輩方が三年生になると 団結力はいよいよパワーアップし、昨年九月に行われた球技大会では、どの学年よりも熱く大きな声での応援に圧倒されました。バスケットボールでもバレーボールでもみんなが団結して誰かがミスをしてもお互いに声をかけ合って 楽しそうにプレーをしている姿で 私たちに元気をくださり、球技大会を盛り上げてくださいました。

また、文化祭では、毎回の教室企画の装飾で 高い表現力と創造力に 驚かされました。私たちが遊びに行ったときには笑顔で出迎えてくださり、話したことがある後輩にも そうでない後輩にもフレンドリーに 話しかけてくださいました。ステージ企画での ダンスや歌は華やかで、それまでの努力が詰まった集大成でした。今も鮮明に思い出すことができます。また、みんなを楽しませようという工夫を忘れず、来年私たちも こんな風に 全員を引き込むような充実した企画を考えたいと思いました。廊下で先輩に会ったときに「二年生 すごいね」と褒めてくださり とても嬉しかったです。

何よりも先輩方に支えていただいたのはクラブ活動です。私は初心者からのスタートだったのでたくさんの不安がありました。しかし、試合の大切な場面で大きなミスをしてしまったとき、練習で周りの人との差で苦しんでいるとき、たくさんのアドバイスをしてくれました。どんなときも 自分の経験談を笑顔で話して 励ましてくださったり、笑い話をして 笑顔にしようとしてくださったりしたので どんなに落ち込んでも 最後は先輩に少しでも恩返しがしたいと思い、ここまで折れずに 頑張っ続けることができました。また、私が周りをうまく見ることができずに 気遣いができなくて焦っているときには、必ず手を差し伸べて 助けてくださいました。自ら進んで行動し、私たち後輩に たくさんのお手本を見せてくださいました。日々の全力のプレーや 部活に 真剣に向き合い、努力している姿が とてもかっこよかったです。いつも心強い声かけや行動で私たち後輩を引っ張ってくださった先輩方は私にとって誰よりも 憧れの存在です。先輩方と二年間という時間を松蔭で過ごすことができたのは 私にとってどんなものにも代えることができない 宝物です。いつまでも尊敬しています。

明日からは 私たち二年生が 後輩のお手本となる番です。今は 頼りない私たちですが、先輩方のように後輩を導いていけるよう 何事にも真剣に、諦めず努力していきます。

気持ちを込めて明日からそれぞれの選んだ道に向かって歩き始める先輩方。進まれる先には楽しいことや希望で満ち溢れていると思います。そしてもちろん時には 厳しく、苦しい壁が 待ち受けているかもしれません。そんなときには松蔭高等学校で過ごした日々を 思い出してください。心強い先生方や どんなどきでも 同じ壁に立ち向かってきた 仲間、たくさんの思い出を作ってきた 友達があります。周りの人と支え合えば どんな困難も明るく乗り越えられると信じています。微力ながら、私たち後輩も 応援しています。

最後になりますが、先輩方の 益々のご健勝と ご活躍を 心からお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

在校生代表 浜田 優衣

答辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、若鳥も巣立ちの準備を始める春が訪れようとしています。

本日はこのような心のこもった卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。卒業生一同、心より感謝申し上げます。

令和四年四月、新しい制服に身を包んだ私たちは期待と不安を胸に、この松蔭高校の門をくぐりました。入学当初は新型コロナウイルスによる制限がまだ残っており、最初の学校行事だった体育祭は規模を縮小したスポーツ大会という形で行われました。物足りなさもありましたが、コロナ終息に向けて世の中が変わっていく喜びもありました。林間学校では、毎日の検温、全員前を向いての黙食でした。今となっては不自然な状況でしたが、それでも初めての宿泊行事を思いきり楽しみ、友だちとの距離がぐんと近づきました。

私たちの学年は行事とにかく一生懸命な学年でした。特に力を入れたのは文化祭です。1年生のときから企画賞をとり、3年生では実行委員を中心に、夏休みにも集まって準備しました。受験や部活で忙しいなかでも一人一人がなんとか時間を作り、協力しました。その成果あって、装飾大賞をとることができました。文化祭ごとに私たちの仲が深まっていくのを実感しました。

二年生の十一月に行った修学旅行の記憶は、今でも鮮明に心に刻まれています。広島で原爆ドームや資料館を見た時の衝撃、改めて戦争の悲惨さを知りました。戦争を経験していない私たちが、当時のことを本当に理解するのは難しいと思います。それでも、展示物の一つ一つに真剣に向き合い、平和の尊さ、そしてこの平和を守っていく責任の重さを痛感しました。

また、自然の美しさにも感動しました。みんなで見た宍道湖に沈む夕日、忘れません。行く前は「砂しかないのに…」と言っていた鳥取砂丘。でも実際に砂丘に立つと、友だちや先生と思いきりはしゃいで、子どものように走り回っていました。修学旅行の思い出に、鳥取砂丘を真っ先に思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

一緒に焼き肉を食べて、温泉に浸かり、夜遅くまでおしゃべりをして、バスではカラオケで盛り上がり、友だちの知らなかった一面を知って、たくさんの大切な思い出を作ることができました。

三年生になり、いよいよ高校最後の年、受験にむけた大切な時期を迎えました。そんななかでも、私たちは全力で行事に臨みました。5月の体育祭では円陣を組んで、心をあわせて躍ったダンス。「最高到達点」は思い出の曲になりました。9月の最後の球技大会、みんなの応援が力になって、すばらしいプレーが続出しました。そのたびに抱き合ったり、ハイタッチしたりして、笑顔いっぱいの1日でした。

出会った頃、まだぎこちなく会話していた私たちは、この三年という月日を共に過ごし、絆を深め、信頼関係を築くことができました。

本格的に受験の時期を迎え、誰もが自分の進路について真剣に考え、決断していきました。私たちが立ち止まってしまったとき、先生方が親身になって相談に乗ってくださり、最後の最後まで寄り添い、支えてくださったこと、とても感謝しています。

そして、高校生活を語るうえで欠かせないのは部活動です。ここで少しでも私のお話をさせてください。私が所属していたソフトボール部は、入部当初は部員がたったの三人でした。でも、少ない部員でも日々練習に励み、他校と合同チームを組んで試合に出場しました。ソフトボールはチームプレーなので、合同チームではなかなか大変なことも多く、他校の部員とコミュニケーションをとり、一つの目標に向かってチームの士気を高めていくことの難しさを痛感しました。それでも大切な後輩に恵まれ、他校にも素敵な仲間ができました。

楽しいことだけでなく、つらく苦しいこともたくさんあった部活動でしたが、ここまで続けてこれたのは間違いなく、かけがえのない仲間と尊敬する先生のおかげです。そして何より家族の支えがあったからです。ふだんは試合についてあまり多く話さないけれど、たまにほめてくれる寡黙な父。私がソフトボールをしている姿が大好きだと言って、いつも試合の応援に駆けつけてくれる母。アルバイトや大学で忙しくても大事な試合には差し入れをもって必ず応援に来てくれる姉。そんな家族のおかげで辛いときも、苦しいときも乗り越えることができました。

ひとつのことをやり抜くことは自分一人の力ではできません。必ず、支えてくれる人、助けてくれる人、応援してくれる人がいます。その力を借りて、そして時には自分が誰かの力になって、私たちは成長していくのだと思います。

中国の故事成語に「飲水思源」という言葉があります。「飲水 思源」、飲水は「水を飲む」、思源は「みなもとを思う」です。これは、水を飲むときには、水源つまり井戸を掘った人の苦労を思え、という戒めです。物事の基本や、感謝の気持ちを忘れてはいけない、という意味です。

三年間、松蔭高校に通えたことは当たり前ではありません。いま、こうして卒業式を迎えられたことも当たり前ではありません。改めて、私たちを支えてくれた全ての人に感謝したいと思います。

もしあの時、松蔭高校の説明会に来ていなかったら、もしあの時、松蔭高校の受験を決めなかったら、この大切な友だちや先生方に出会えていなかったでしょう。

私は松蔭高校に入学して83期のみんなどと同じ時を過ごし、たくさんの思い出を作れたことに感謝しています。ひとりひとりに伝えることは難しいので、この場を借りて言わせてください。

「みんな、心からありがとう」

今日でこの制服を着て、毎日のように会っていた友だちや先生と会うこともできなくなります。「また明日ね」と言えた日々は、ほんとうに幸せでした。

でも、どうか、忘れないでください。明日が来ることが当たり前ではないということ。命の尊さを目の当たりにした私たち、経験した私たちだからこそ、生きていることのすばらしさを知っています。当たり前ではない一日一日を、大切に生きたいと思います。

さあ、出発の時です。自らが選んだ道の「正解」を見つけに、「最高到達点」に向けて一步一步、胸を張って進んでいきましょう。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、先生方皆様と、母校の末長きご発展を願いつつ、卒業生を代表してお別れの言葉といたします。

卒業生代表 佐藤 杏花里

松蔭幼稚園実習を終えて

3年生の幼児教育・保育系進路決定者は、本校附属幼稚園で実習を行いました。



幼稚園での毎日は面白かった。さっきまで走り回っていたのに急にしゅんとしたり、どうしてもおもちゃを貸したくなくてケンカがはじまったり、意外と子どもが苦笑いしたり、大人のように接待してくれることもあった。子供たちが純粹で真っ直ぐだからこそ「すき」とか「先生がいい」「また来てね」という言葉がすごく嬉しかった。初めて会った時は全く笑わなかった子が段々笑顔に向けてくれるようになって、見つけたら走って来てくれるようになった。子供と関わっていくうちにやりがいを感じることも多くあった中で、プンプンして怒っていた子をすぐに笑わせたりすることができる他の先生方はすごいと思った。慣れない毎日だったけど大好きな子どもたちと関わりながら先生がどうあるべきかを学ぶことができ、あらためて保育士になれるよう頑張ろうと思った。(O・A)

私は年長と年少クラスを見させていただきました。皆でどこかに行くときは列になるのですが、年少クラスは並んでもらいたい場所で先生方が園児の注意をひいて誘導していました。しかし年長クラスになると並ぶように指示が出ると自分からその場所に行き静かに待っていました。年少と年長、園児の成長段階に応じて先生のやる事が少しずつ変わっていることに気がつきました。また、何人かの園児がDVDを見たいと先生に伝えた時には、極力園児の要望に添えてあげようと先生方で話し合っているのを見て、子どもたち一人ひとりが満足して過ごせるように配慮されていることを実感しました。私が先生になったとき、今回の幼稚園実習で学んだ園児達の誘導の仕方や、過ごしやすい環境の作り方を実践してみようと思います。非常に多くのことを学び、今後の糧となる良い機会を頂きました。ありがとうございました。

(H・M)



探究学習発表会



7月から準備を進めてきた探究学習の発表会を3月18日に行いました。1年生はグループで「SDGSの達成に近づくプロジェクトを提案する」を課題にし、ポスター展示でプレゼンテーションしました。2年生は各班が決めた自由テーマを、パワーポイントを用いたプレゼンテーションで発表しました。当日は「A信頼性」「B社会貢献性」「C独創性」「Dプレゼンテーションの完成度」の4項目を評価し投票しました。

探究学習発表会結果

【2年の部】

優勝

「人とかわるの難しすぎだろおお!!」

～距離はとってもとられるな～

準優勝

「Love so sweet

～恋愛は変態への第一歩～

【1年の部】

優勝

「堆肥循環 PJT」

準優勝

「ゴミ箱クロンクリーン大作戦」